

【悪魔】 来年度の概算要求に対する査定作業の中で、いろいろな事業が廃止になったり予算を減らされたりしているようですね。学校関係の予算にもずいぶん厳しい判断がされそうです。が、どのようにお考えになりますか？

【天使】 現在、行政刷新会議によって行われている事業仕分け作業は、限られた国家予算の使途について、予算要求された事業に対する査定作業を公開して行われているものだ。これまでの予算要求に対する調整は、財務省を中心とする省庁間の水面化での交渉で事実上行われてきた側面が否定できないから、査定作業が公開されることにより、国民全体の関心が高まること自体は、一般論としては望ましいことと言えるだろう。

【悪魔】 でも、査定が公開されているかどうかと、予算の配分がうまく行われるかどうかとは、少し違うことでしょうか？ 報道されているのは目立つ部分だけなのかもしれません。全体として査定自体がどういう基準で動いているのか、さっぱり見当がつかないんですけれど。

悪魔と天使の 法学入門

筑波大学准教授 星野 豊

第34話

政権交代と予算配分

【天使】 今回の事業仕分け作業の最も大きな特徴の一つは、これまでの年度で予算が配分されてきたという事実を過大視せずに、すべての事業について予算の必要性と妥当性とを改めて見直す姿勢を貫いている点にある。従前ならば、これまで巨額の予算が投入されてきたものについては、途中で事業を打ち切ることによる不利益が強く主張される傾向があったのだが、かかる予算についても逐一見直しが行われ、一部については事業廃止や予算計上の見送り、あるいは事業内容自体の再検討の要請が出されているために、これまで継続してきた事業が根底から覆るという意味で、混乱が生じているという印象があることは否定できない。

【悪魔】 なるほど、それでダムだろうとスーパーコンピュータだろうと予算がぶった切られる、ということなんですか。ただ、今のご説明では、私がさつきおうかがいした査定作業の基本的な考え方は、まだ分らないままですね。「無駄を省く」ということがずいぶん言われていますけれど、どのような予算が「無駄」という

ことになるんでしょうか？ 予算の使い方が違法であったり不当であったり、当初予測されていた成果が全くあがらなかったりした場合には、これまでだって返還が求められていたわけですから、「無駄」というのは「不正」や「失敗」とは違う意味ですよ。

【天使】 一種のキャッチコピーに厳密な定義を行う必要があるかは微妙なところだが、あえて言うなら、不正というまでには当たらないが、予算に見合うだけの成果や社会貢献が期待できないもの、ということだろう。成果が一応あがったとしても、それを維持するためにさらに巨額の費用を要するものなども、これに含めて考えてよい。

ただ、もちろん、何をもって成果があがったと言ひ、何をもって社会貢献がなされたと言ひえるかについても、一致した見解はないわけだし、直ちに経済効果が現れ、事業自体から利益が生まみ出されることが期待されるものについては、国家でなく民間が事業として行うべきものだとする見解も十分成り立つ。その意味では、「無駄を省く」という表現は、利潤追求を目的とす



る民間事業における予算配分のイメージに近い性格があると言えるから、国家予算の配分に関しては違和感がある、ということではできるかもしれない。

【悪魔】 国家と民間の関係をそういうふうを考えるのは、世の中が安定していた過去の時代の話でしょう？ 今は民間であっても社会全体のために利潤と無関係な事業を行ったり、国家であっても税収以外の収入を得る努力をしたりしなければいけないと思いますよ。ただ、今の国家は大赤字のようですから、無駄な予算どころか必要な予算だって削らなければならぬのかもしれないけど、もしそうだとしたら、予算の無駄を指摘して事業を廃止たり縮小するんじゃないなくて、どれが一番大事な事業かをじっくり議論したうえで、予算のある限り順番に配分していく、という方法を取らなければならぬんじゃないやありませんか？ どうも今回の査定作業は、政権が交代したのを機会に、これまで優遇されてきた事業の中で特に目立つものをみんなの前で潰してみせている、という感じがしないでもないんですよ。